

# 美術月評

7月

稲嶺成祚

が並べられるのはなへ、ち  
ょうと絵の中の静物のよう  
に、それぞれの作品が、それ  
ぞれの空間をもって配置さ  
れ、空間を含めての作品とし  
たかった。それなびっくり箱  
的な意外性にも興味があっ  
た」。作者の弁である。作品  
はパイプや球といった無機  
的な構造に獣足がつき、パイ  
プや球のなめかしい曲線と相

一線を守っているのではあ  
う。

まって奇妙な雰囲気をもつ。  
いずれも一見オフシェ的であ  
りながら、水の入る口があっ  
て、花器として使える構造と  
なっている。陶芸家としての

## 空間と作品

【奥田美クレイ・ワーク展】  
会場に入ると棚だけがあっ  
て作品が見えない。作品はそ  
れぞれの空間をもって棚の中  
に納まっていたのである。「一  
つの空間の中にすべての作品